



令和6年度大洗町地域おこし協力隊 活動報告書

まちづくり推進課 地域おこし協力隊 | 萬里小路 忠昭

Profile

萬里小路 忠昭 | Tadaaki Madenokoji



生まれ：東京都八王子市 | 育ち：茨城県牛久市

住まい：神奈川県茅ヶ崎市 & 茨城県大洗町（二地域居住）

趣味：読書と散歩 | 得意：整理と収納

MBTI：INTJ（建築家）

<経歴>

2010年3月 法政大学 法学部国際政治学科 卒業

2010年4月 ゼビオ株式会社 新卒入社

2015年4月 デジタルハリウッド大学院 入学

2016年3月 デジタルハリウッド大学院 修士課程修了

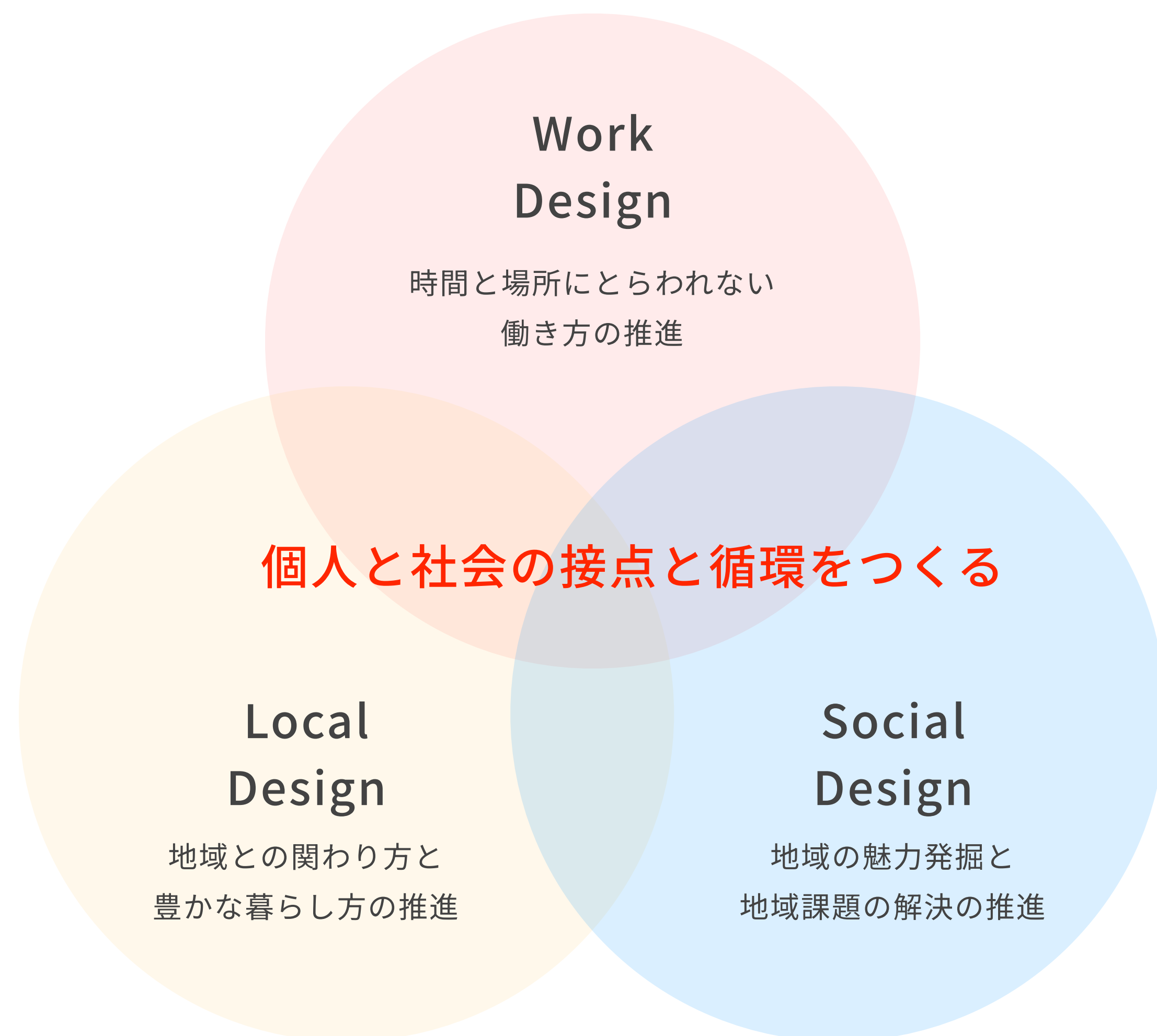
2018年6月 GMOアドマーケティング株式会社 転職

2020年2月 独立（屋号：Thinking Design Lab）

2022年5月 茨城県大洗町 委託型地域おこし協力隊 着任

Works

<活動領域>



<得意スキル>

プランニング（企画・編集）
コーディネート（調整・整理）
ファシリテーション（進行・運営）
リサーチ（調査・分析）
ライティング（記事・レポート） ..etc

<実績 ※官公庁案件>

内閣府：地方創生テレワーク
四国経済産業局：オープンファクトリー
観光庁：観光人材育成プログラム
山口県：やまぐち創生テレワーク
愛知県：離島ワーケーション
愛媛県松山市：デュアルワーク ..etc

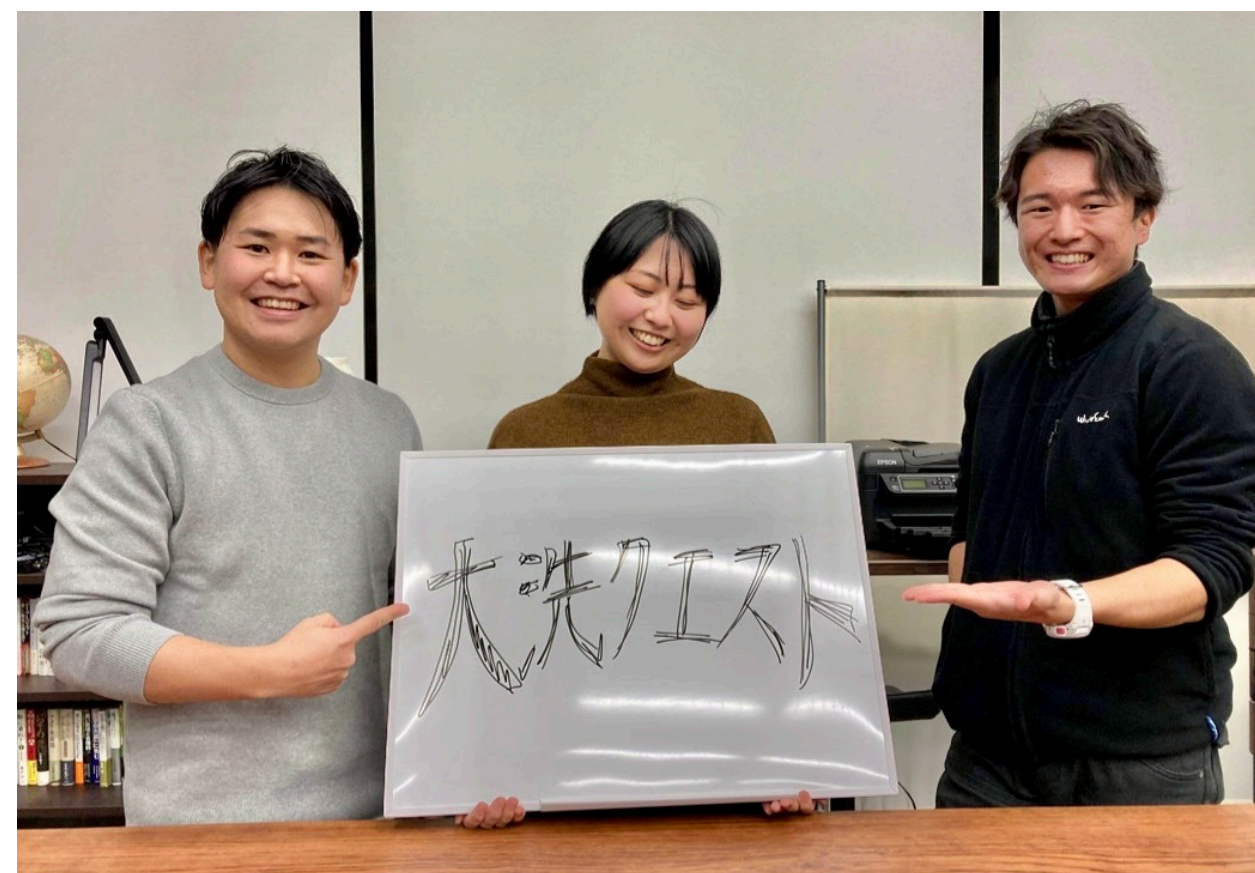
大洗町との出会いから地域おこし協力隊着任まで

2021年12月



大洗町で開催された
まちづくりプログラムに応募

2022年1月



プログラムに参加した3名で
大洗クエストを結成

2023年3月



大洗キャンプ場で
体験型イベントを開催

- ▶ プログラム参加中に町役場の職員の方から地域おこし協力隊に誘っていただく。
- ▶ 神奈川の住まいも残したまま、時間と場所に縛られないフリーランスでの働き方を継続できる契約形態だったので、チャレンジしてみようと決意。

地域おこし協力隊としての活動内容

着任後、町役場と相談の上で、国の地方創生政策における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020）の基本目標2にあたる「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」を中心とした活動を町内外で実施することに。



地域の魅力発掘・発信

- ・まち歩きイベント
- ・まち歩きマップ
- ・ふるさと納税の出店事業者紹介
- ・事業者の新商品企画

..etc

関係人口の創出

- ・ワーケーションプログラム
- ・地域課題解決プログラム
- ・大学連携（玉川大学）
- ・いばらき企画編集ゼミ（茨城県）

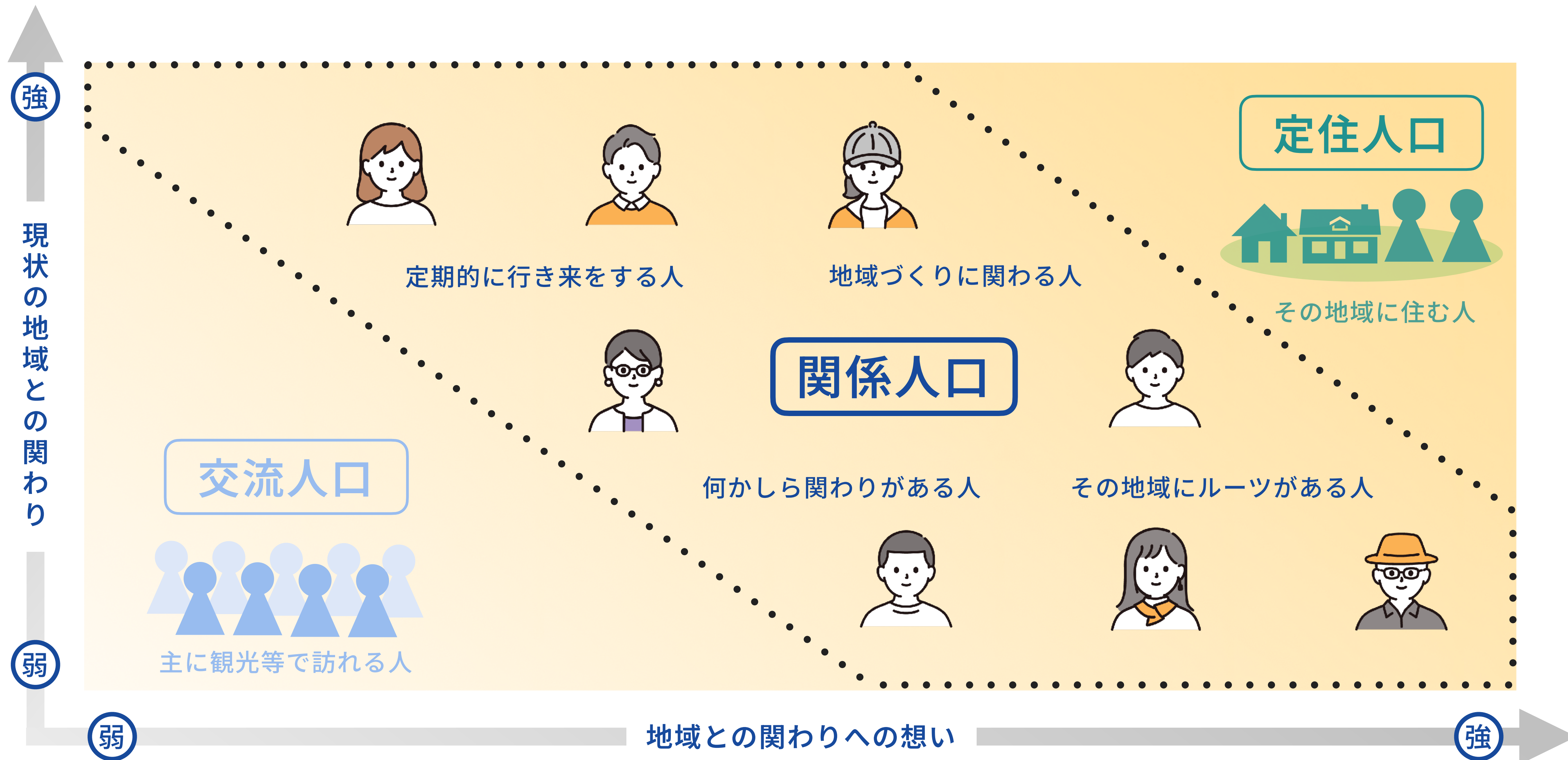
..etc

移住定住の推進

- ・いばらきどまんなかライフ（いばらき県央地域移住・定住促進協議会）
- ・いばらき暮らしセミナー（茨城県）
- ・二地域居住体験プログラム

..etc

参考：関係人口とは？

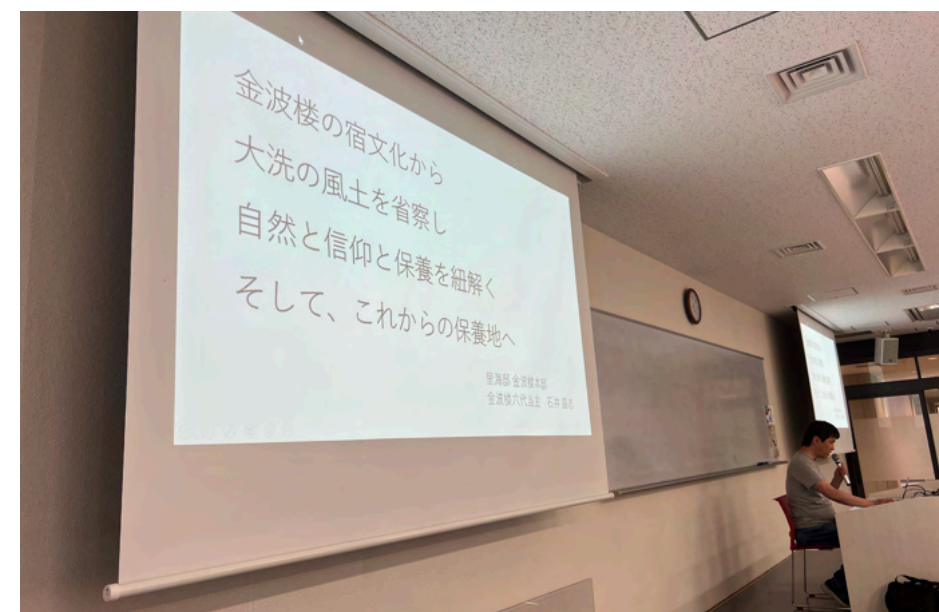


※総務省：関係人口ポータルサイト (<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>) の図を参考に万里小路にて作成

令和6年度の活動

令和6年度の活動①大学連携による関係人口創出

玉川大学観光学部・鎌田伸尚教授と連携し、科目名「地域文化論」にて、大洗町を題材にした講義やグループワーク、現地フィールドワーク、研究論文制作を実施。



茨城県や大洗町の職員や事業者に町の魅力や取り組みを学生に伝えてもらうゲスト講義を全10コマ行い、大洗町の二地域居住の推進に関するグループワークと発表・講評を全4コマにて行った。



講義終了後には学生が町を訪問しフィールドワークを行った。さらに鎌田教授とゲスト講師の里海邸・石井代表と共同で大洗の地域文化を観光地形成論という学問から研究論文を制作した。

玉川大学観光学部紀要 第12号 2024年, pp. 1-55

【研究論文】

茨城県大洗町の観光地形成について —地域文化の発展と観光地の形成・発展過程—

鎌田伸尚*, 石井盛志**, 萬里小路忠昭***

（要 約）

本研究は、茨城県大洗町の観光地としていかに形成されたのかを、大洗ならではの生活・文化背景、自然環境、そして「保養地」としての発展経緯を踏まえ、古代から現代に至るまでを明らかにしたものである。加えて、東日本大震災やコロナ禍等、観光にとって非常に困難な時期を経ても発展を続ける現状や課題についても考察を行った。

キーワード：茨城県大洗町、観光地形成、保養地、エリア・ケイバビリティ、東日本大震災、コロナ禍

1 はじめに

1-1 研究の背景

コロナ禍を経て、今年度（2024年度）はコロナ禍前の2019年度とほぼ同等の基準まで観光業が復活するとの観測もある。円安を背景に、国内旅行が活性化しており、国内の観光地間の競争が激しくなっている。さらに、観光目的は従来の「自然に触れる」、「名所旧跡」、「温泉」等に加え、近年はアニメの舞台等の「聖地巡礼」もその目的となり、観光の多様性が増している。

観光地は、その発生から「観光地」と成るまで、それぞれ固有の理由と成り立つ方法があり、観光ブランド化している。一方で、施設等を充実させていく中で没個性となりがちな観光地も見られる。観光地間の競争が増している現状において人気の観光地と成るためには、観光地の形成過程を見直し振り返ることで、当該の観光地の真の価値を問いだし、明らかにすることにほかならない。

1-2 研究の目的と方法

本研究では、まず国内の観光地の形成過程の類型を確認し、その一類型として「保養地」に焦点を当てることで、茨城県大洗町についての観光地形成のプロセスを明らかにし、大洗町の観光地としての価値を再認識し、今後の展望を考察する。

1-3 本稿の構成

本研究では、以下第2章において、国内の観光地がいかに形成されたかについて観光地形成の類型を整理する。続く第3章では、類型の1つである「保養」を起源とする茨城県大洗町の観光地としての形成過程を論じる。そして、第4章では、大洗の生活観光地としての可能性について考察する。

所属：* 観光学部観光学科
** 有限会社金波楼
*** 大洗町地域おこし協力隊

受理日 2025年1月14日

令和6年度の活動②二地域居住体験ツアーの開催

自身も当事者であり、過去2年間の移住の推進を通してニーズが顕在化してきた、普段住んで地域ともう一つ別の地域に暮らしを持つ「二地域居住」の現地体験ツアーを開催。



(リンク先①)
[プレスリリース](#)



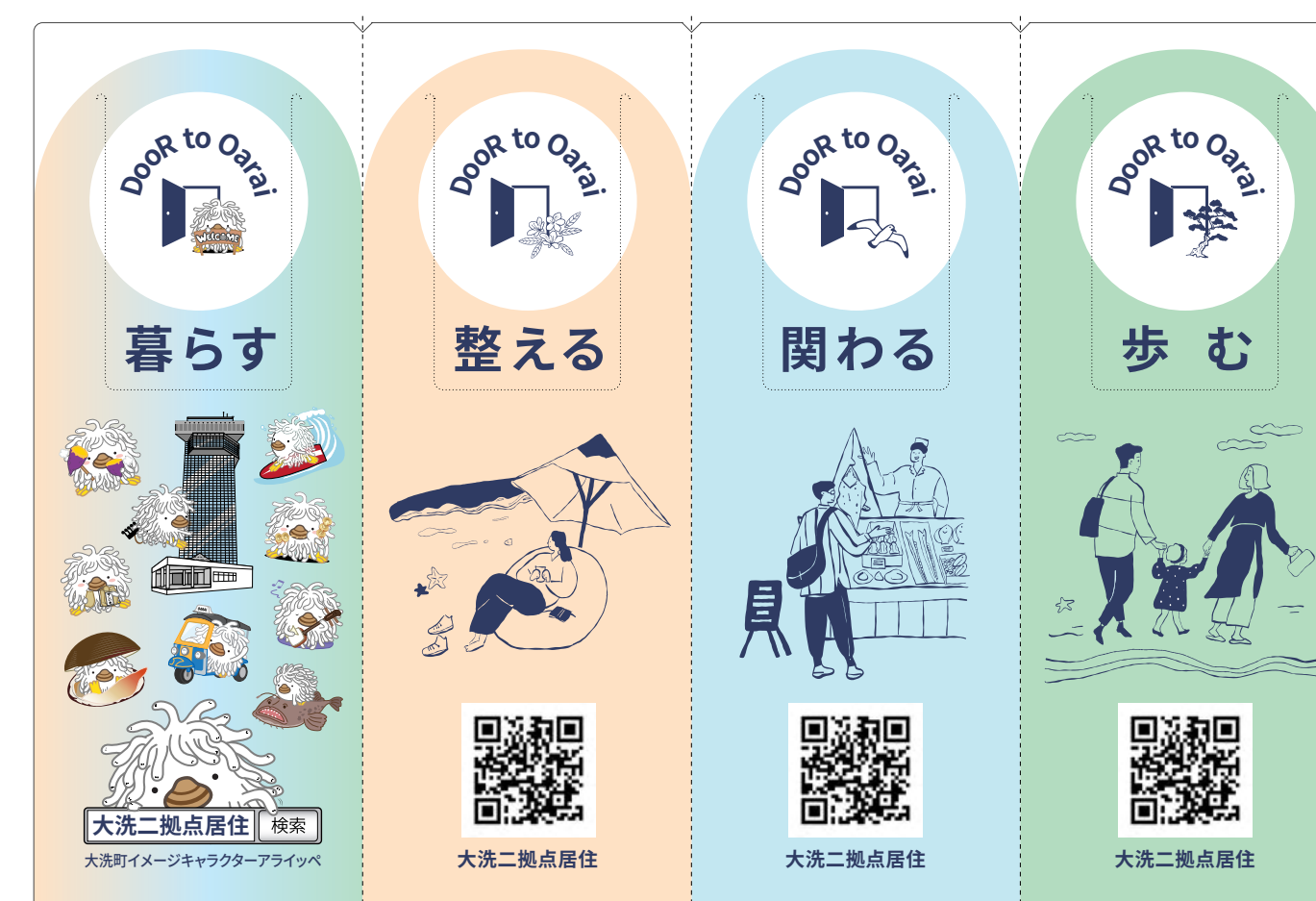
(リンク先②)
[イメージ動画](#)

2024年10月～11月の秋と2025年3月～4月の春シーズンにて2泊3日の居住体験で募集したところ、応募総数33組となった。オンラインでのヒアリングを経て、最終的に5組11名に参加いただくことになった。

参加者は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の首都圏在住者で、ご夫婦や子供連れのファミリー、お一人などいろんな層の方々に参加をいただき、大洗の暮らしを体感・体験していただいた。

令和6年度の活動③二地域居住webサイト・ノベルティの制作

二地域居住の広報施策として、居住体験ツアーの募集やレポート記事、動画などのコンテンツを掲載したwebサイトとサイトへの誘導も入れたノベルティ（栞）を制作。



ノベルティ（栞）のデザイン



Webサイトのトーンは大洗町のイメージカラーである紺や青、砂浜や海の反射の金色を軸に、首都圏からアクセスしやすいことを伝えるため、ドアをモチーフにした。おすすめの過ごし方などのコンテンツもサイト内で掲載している。

(リンク先) [webサイト](#)

令和6年度の活動④ いばらき暮らしセミナーへの登壇

東京・有楽町のふるさと回帰支援センターにて開催された茨城県主催のイベントで、茨城への移住や暮らしに関心のある参加者向けに、大洗町の魅力を紹介。



移住者ゲストとして、2022年に大洗町に移住し、別荘サブスクリプションサービス「OURoom」を展開する葦原さんに、前半は移住のきっかけや大洗での暮らし方、お気に入りの場所・お店、地域の人との関わり方を聞いた。後半は参加者15名程度と交流しながら、大洗での暮らし方のイメージを深め、大洗の暮らし情報を載せたミニガイドブックを配布した。



茨城県大洗町に暮らす・関わる ～Living in Oarai Town～ ミニガイドブック



令和6年度の活動⑤ いばらきどまんなかライフ

県央9市町村（水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村）にて構成されるいばらき県央地域移住・定住促進協議会で移住定住を促進。



9市町村に約2週間滞在し、働くと暮らすを体験するふるさとワーキングホリデー参加者をコーディネート。



東京国際フォーラムで開催したふるさと回帰フェア来場者の相談対応。

地元を知ろう。いろんな働き方・暮らし方を聞こう。

さがすいばらき | 先輩の話を聞く

in水戸
アイデアの集合場所
haco

会社じゃない働き方を選んだ理由

ざきキャンプ企画
小松崎 翔太さん

大洗クレスト/大洗町地域おこし協力隊
萬里小路 忠昭さん

2025.02.09
13:00~15:00

主催：いばらき県央地域移住・定住促進協議会

茨城県出身 & 在住の学生向けの定住・Uターン促進事業のイベントに登壇。

令和6年度の活動⑥事業者の新商品企画

協力隊1年目（令和4年度）に企画運営したまちづくりプログラムに参加したカジマさんと町外在住の社会人4名による新商品企画が約2年の月日を経て、2024年11月にリリース。



①プログラム参加者4名との企画会議
(2023年1月～2月)



②企画したクリームコロッケの試食会
(2023年3月)



③あんこう祭で限定販売＆アンケート調査
(2023年11月)



④商品化に向けて研究・改良が続く
(2024年1月以降)



⑤ずわいがにたっぷりクリームコロッケ極
として商品化が決定（2024年11月発売）



プログラム参加から新商品リリース
まで一緒した梶間千萩さん



(リンク先①) 新商品
発売時の[プレスリリース](#)

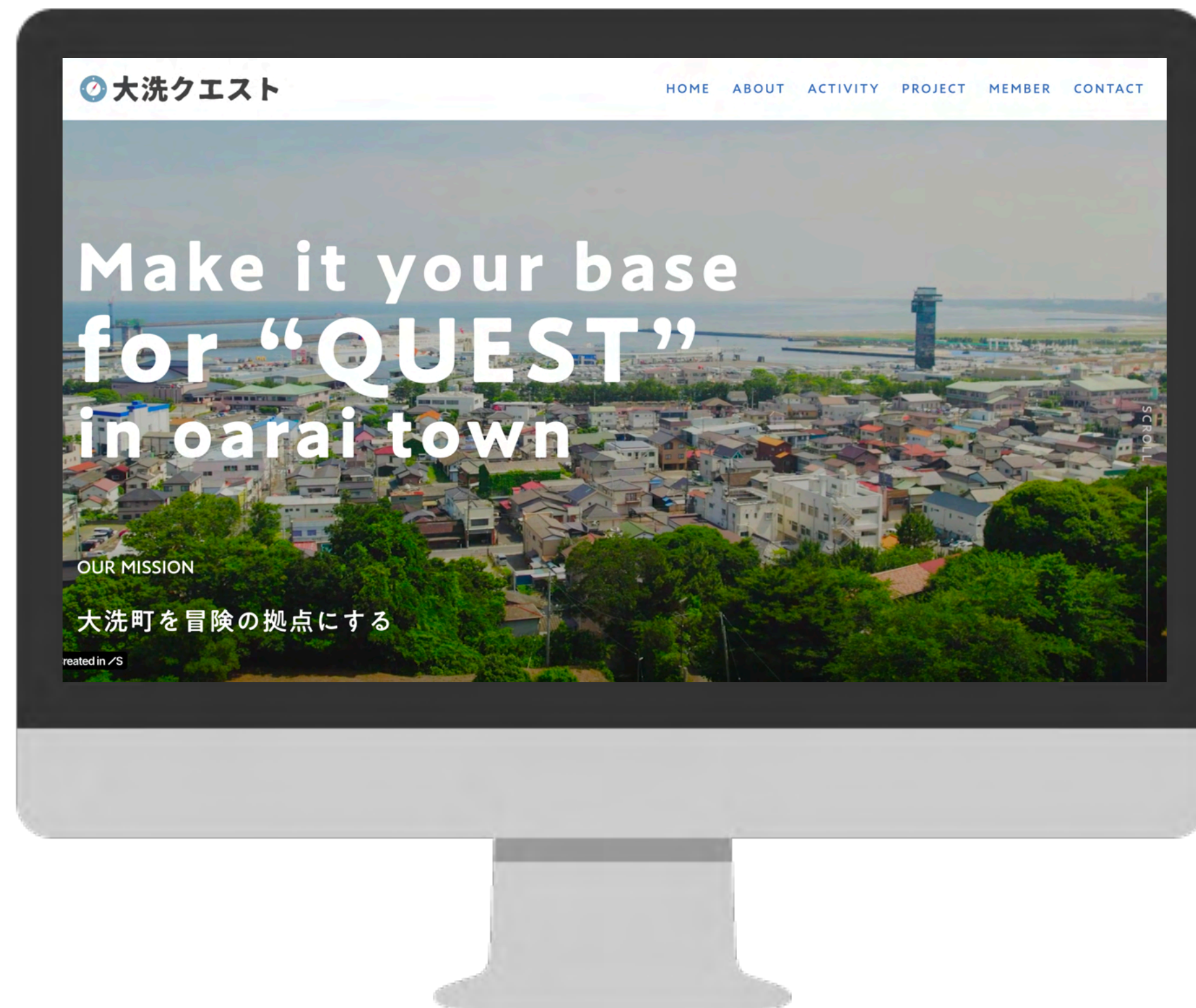


(リンク先②) 新商品発売時の
[水戸経済新聞の取材記事](#)

3年間の主な制作物

3年間の主な制作物①webサイト

大洗クエスト（地域づくり団体のサイト）



<https://owaraiquest.studio.site/>

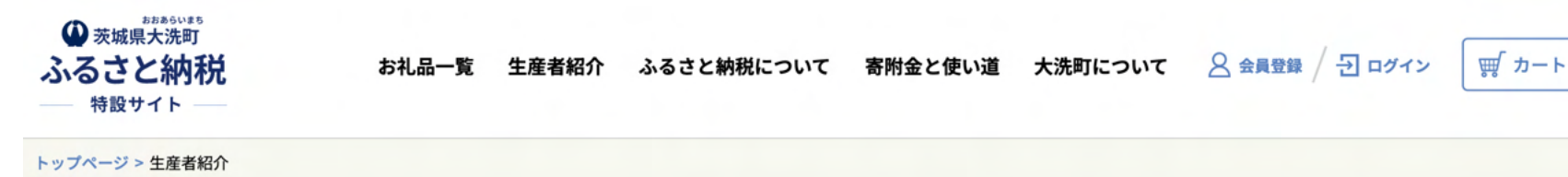
DooR to Oarai（大洗町二地域居住サイト）



<https://oaraiduallife.studio.site/>

3年間の主な制作物②記事

大洗町ふるさと納税 | 生産者紹介



生産者紹介 *Producer*



株式会社になべんいち



株式会社寿多庵



株式会社東京かねふく



有限会社弥七商店



株式会社谷藤水産



農産物加工 幸重



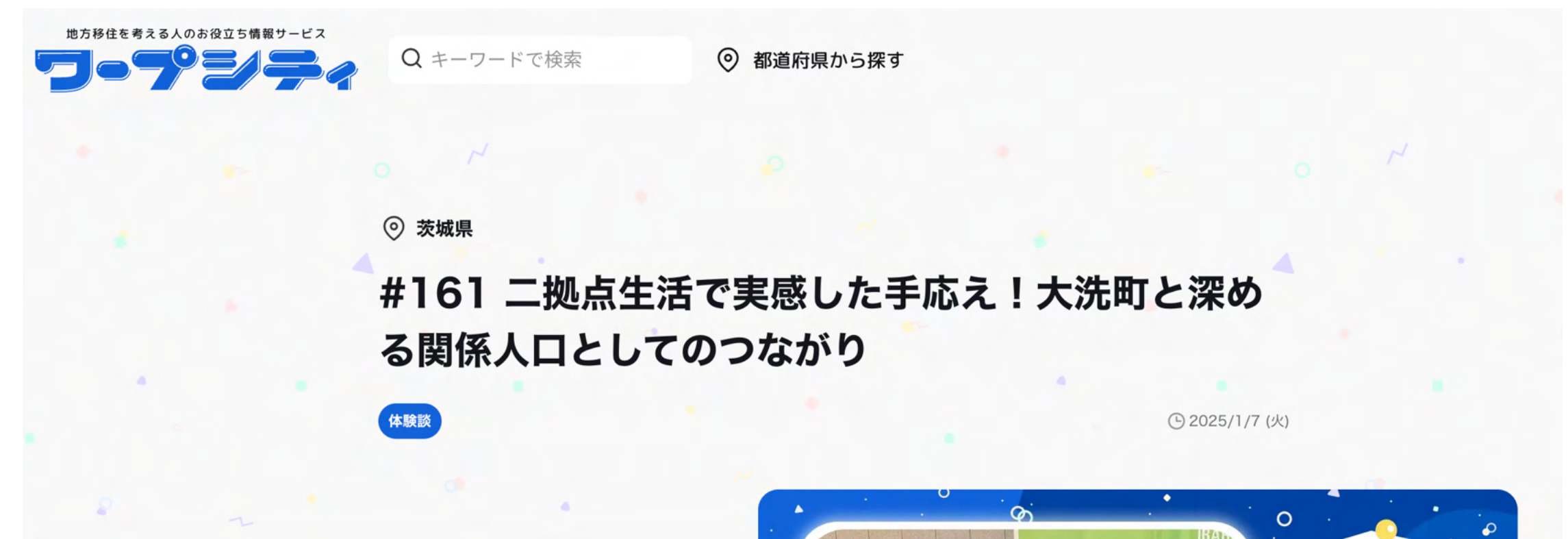
株式会社カジマ



株式会社ヤマイン

<https://furusato-oarai.jp/producer/>

ワープシティ | 地域おこし協力隊活動紹介



移住者プロフィール

萬里小路 忠昭（までのこうじ ただあき）さん

利用した支援制度 地域おこし協力隊

茨城県大洗町の地域おこし協力隊、趣味・特技：読書・散歩・整理
収納



https://warp.city/posts/c3G_HsmuAyPBVSsmUcWazW

3年間の主な制作物③動画

大洗うみまち歩き



大洗うみまちワーケーション



うみまち二拠点居住



うみまちひろば



まちづくりプログラム（イベント）

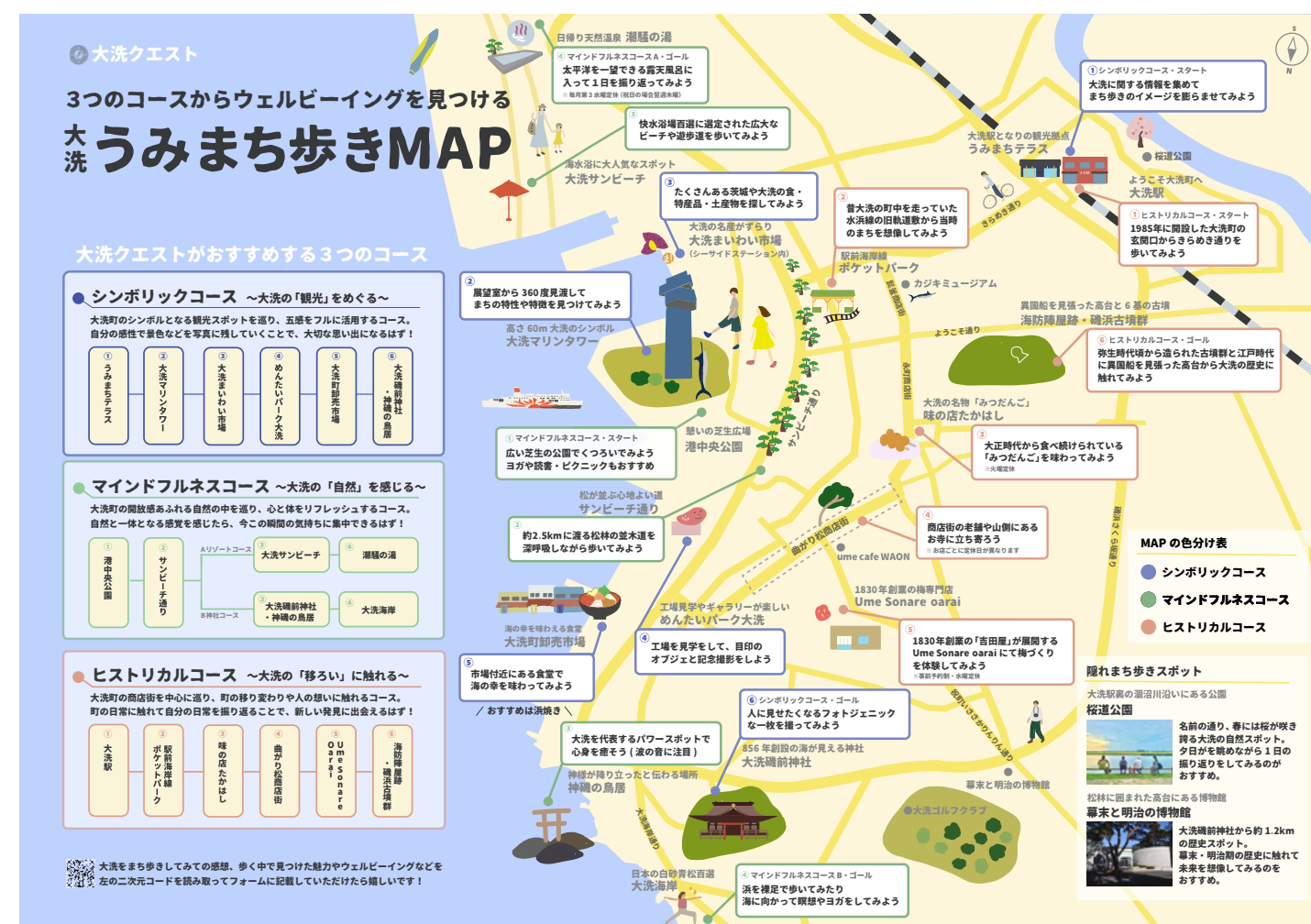
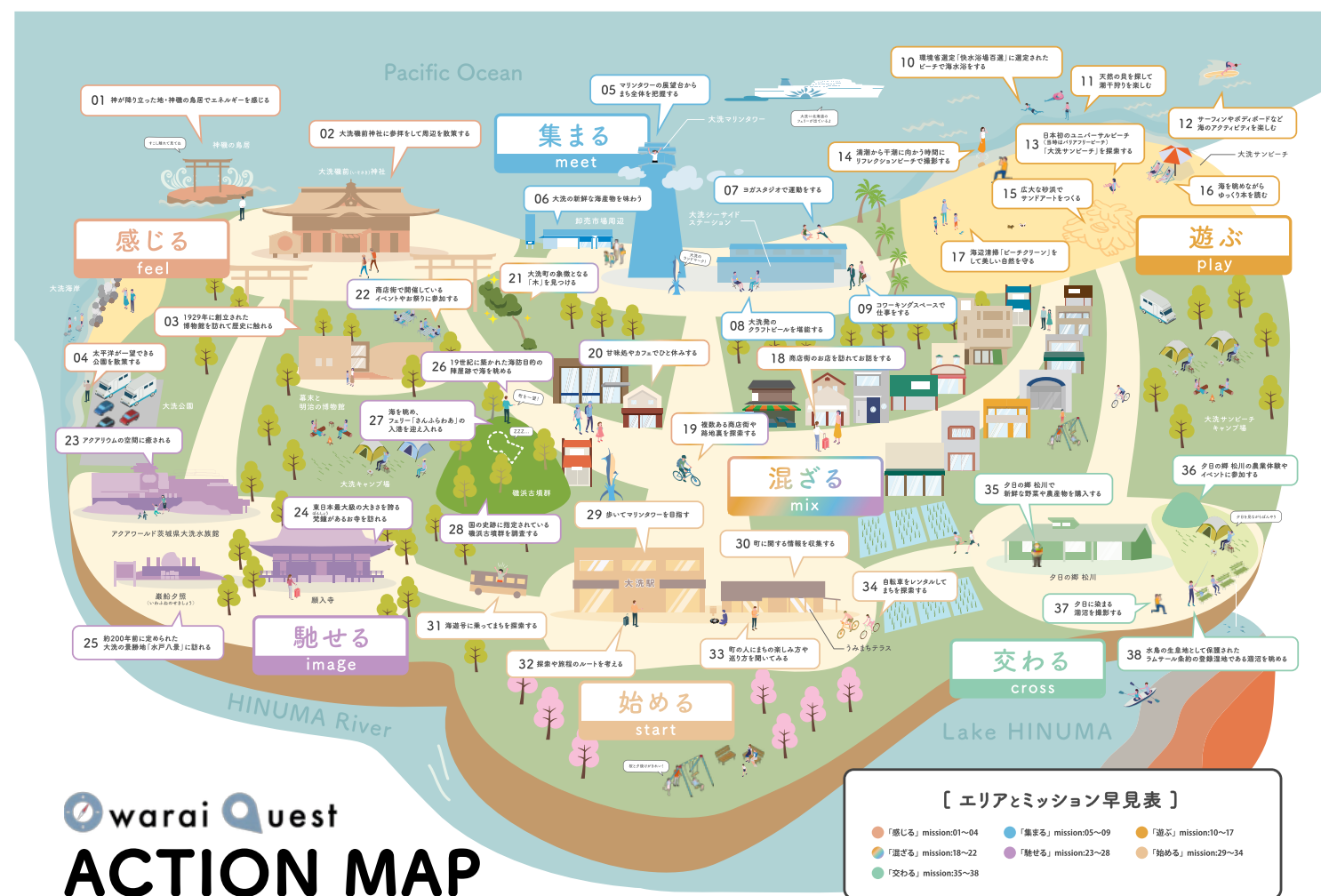


まちづくりプログラム（参加者の声）



<https://www.youtube.com/@owaraiquest/videos>

3年間の主な制作物④冊子



3年間の主な制作物⑤ バナー・チラシ



いますぐ食べたい、そんなあなた！

かじまブース

カニのかじまならでは！ふんだんにカニを使ったリッチでプレミアムなカニたっぷり「クリーム」コロケが誕生しました！ぜひ食べに来てください！

惣菜店かじま 榎間千萩

にんべんいちブース

シラスの食べ方は十人十色です。添加物を一切使わず、魚本来の旨味を引き出したにんべんいちの旬のシラスを召し上がってください！

にんべんいち代表 坂本貴英

お土産も買って帰りたい、そんなあなた！

惣菜店かじま

お総菜・お弁当・オードブルそして、80年の歴史を持つカニの加工工場直販ズワイガニやタラバガニもご購入できます！

ホームページ Instagram

にんべんいち工場直営店

冷凍生しらす、たたみわしや釜揚げしらす、ちりめん山椒に至る、しらす製品全般を製造する「大洗しらす職人」のしらすをぜひどうぞ！

ホームページ

大洗クエストブースにて両店舗で使用可能な割引クーポンを配布中！



茨城県の太平洋沿岸のほぼ中央に位置する大洗町は、人口約1万5千人の海・川・湖に囲まれた小さな町です。恵まれた自然環境のもと、古くから人々が暮らしと生業を営んできました。現在もその風土や文化を大切にきた大洗で、今住んでいる地域ともう一つ別の地域に暮らしを持つ「二拠点居住」を体験する2泊3日のツアーを開催します。そこには日常からの解放や心身の回復、異なる価値観との出会い、新たな居場所の発見などがあるかも…。本ツアーは1回1組限定になり、3日間の行程は応募者の意向や関心事などに合わせて、カスタマイズした内容になります。東京から約90分のうみまち・大洗でもう一つの暮らしを体験してみませんか？

1回目 10.24 木 - 26 土

滞在先 OURoom 大洗 1st コンテナハウス物件

2回目 11.2 土 - 4 月

滞在先 町内の一軒家 宿泊許可物件

対象者

- ・現在、都市圏に住んでいて二拠点居住を検討している方
- ・海や自然環境に囲まれたまちで暮らしたい方
- ・新しいライフスタイルや暮らし方を考えている方

募集人数 各回1組(2名)まで ※詳しくは応募フォームをご確認ください。

参加費 無料 ※往復の交通費や現地での食費などは参加者負担となります。

応募条件

- ・応募後にオンラインでのヒアリングが可能であること
- ※応募段階で落選となる場合もございますので予めご了承ください。
- ・ツアー中の写真や動画撮影(顔出し)が可能であること
- ※撮影した写真や動画は大洗町のwebサイトに掲載する予定です。

応募は **こちら**

<https://forms.gle/2XJbYNVegY1gjiN9>

応募期限 **9.23 月**

お問い合わせ先 担当：萬里小路（までのこうじ） メールアドレス：owarai.quest@gmail.com

主催 大洗町まちづくり推進課 運営 大洗クエスト 協力 一般社団法人大洗観光協会

3年間の主な制作物⑥プレスリリース

カジマ×関係人口×ファンによるコラボで生まれた、新商品「ずわいがにたっぷりクリームコロッケ 極」販売...



🕒 2024年11月6日 10時00分
Owarai Quest

茨城県大洗町で活動するまちづくり団体「大洗クエスト」が商工感謝祭&大洗あんこう祭に初出展



🕒 2023年11月8日 10時00分
Owarai Quest

茨城県大洗町で「ウェルビーイング」をテーマにしたまち歩きイベントを2023年10月29日(日)に初開...



🕒 2023年9月28日 10時00分
Owarai Quest

茨城県大洗町の地域共創型まちづくりプログラム「Create Owarai」成果発表イベントを2023...



🕒 2023年3月9日 10時00分
Owarai Quest

モニター参加者を募集！茨城県大洗町で2泊3日の地域体験型ワークショッププログラムを12月に開催します



🕒 2022年11月17日 17時00分
Owarai Quest

参加者募集！茨城県大洗町で「二拠点居住」体験ツアーを2024年秋に初開催！



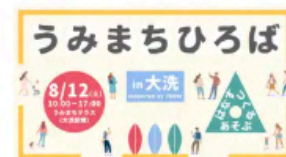
🕒 2024年8月28日 10時00分
Owarai Quest

参加者募集！茨城県大洗町で「地域との持続可能な関係」をテーマにしたワークショップを11月下旬に開催



🕒 2023年10月24日 11時00分
Owarai Quest

茨城県大洗町で「人と人がつながる×世界観をシェアする」場づくりプロジェクト"うみまちひろば"を始動！



🕒 2023年7月21日 09時00分
Owarai Quest

参加メンバーを募集！茨城県大洗町で2023年1月から3ヶ月間の地域共創型まちづくりプログラムを開催し...



🕒 2022年11月28日 10時00分
Owarai Quest

大洗町の魅力を50のミッションから発掘する新感覚!?フィールドワークイベントを2022年10月1日(...



🕒 2022年9月9日 10時30分
Owarai Quest

参加者募集！茨城県大洗町で「二拠点居住」体験ツアーを2024年秋に初開催！

東京から約1時間30分のアクセス、海・川・湖に囲まれた大洗でもう一つの暮らしを。

Owarai Quest 2024年8月28日 10時00分



茨城県大洗町にて「大洗町を冒険の拠点にする」をミッションに地域活性化や関係人口創出等の活動を行うまちづくり団体「大洗クエスト」は、今住んでいる地域ともう一つ別の地域に暮らしを持つ「二拠点居住」の2泊3日体験ツアーを2024年10月と11月に開催いたします。開催にあたり、都市圏等に住んでいて、二拠点居住に興味関心がある方や海のあるまちで暮らしたい方など、各回1組（2名）の参加者を募集いたします。

<大洗町×二拠点居住の背景>

「二拠点居住」は近年、テレワークやリモートワーク等の普及に伴い、新しいライフスタイルとして注目されています。大洗町は恵まれた自然環境のもと、古くから人々が暮らしと生業を営み、信仰や保養の地として発展してきました。

大洗町での二拠点居住は、普段にはない時間の流れや人の動きを感じることができ、土地ならではの風土や積み重ねてきた習慣を知ることができます。それらは日常からの解放や心身の回復、地域の人との交流、異なる価値観との出会い、新たな居場所の発見などにつながると考えています。

また、二拠点居住の推進は都市部と地方部の接点や人の流れをつくり、地域にとっては地方創生や関係人口創出につながり、個人にとっては多様なライフスタイルの実現や心身ともに良好な状態であるウェルビーイングの向上につながると考えています。



カジマ×関係人口×ファンによるコラボで生まれた、新商品「ずわいがにたっぷりクリームコロッケ 極」販売開始

大洗町のまちづくりプログラムに参加した町外在住の会社員4名との試食会が新商品誕生のきっかけに！

Owarai Quest 2024年11月6日 10時00分

茨城県大洗町にて「大洗町を冒険の拠点にする」をミッションに地域活性化や関係人口創出等の活動を行うまちづくり団体「大洗クエスト」は、令和4年度に開催したまちづくりプログラムに参加した4名の会社員と共に、大洗町で水産加工や飲食・小売事業等を展開する株式会社カジマ（代表取締役：梶間桂子、以下「カジマ」）に新商品開発の伴走支援を行ってきました。この度、そのコラボレーションによって商品化した「ずわいがにたっぷりクリームコロッケ 極」を令和6年11月17日(日)より販売開始いたします。



<新商品誕生までのストーリー>

1.まちづくりプログラムに参加&試食イベントを開催（令和4年度）

大洗クエストは、大洗町のまちづくりや地域活性化に関わる人たちを増やす関係人口の創出を目的に、令和5年1月より3ヶ月間のプログラムを開催しました。そこに地域事業者側としてカジマに参加していただき、多様なスキル・経験・アイデアを持った町外在住の会社員4名と「ものづくり」をテーマにしたプロジェクトチームを結成しました。

プログラム内での現地フィールドワークやオンラインミーティングなどを経て、最終的に「かに屋さんが本気でつくるカニクリームコロッケをつくらう！」と、プログラム最後の成果発表イベントでは試食会イベントを開催。カジマを代表する「ずわいがにたっぷりコロッケ」との食べ比べを実施し、試食者69名中54名が「カニクリームコロッケをより買いたいと思った」という結果になりました。



試食会で食べ比べをしている様子

より買いたいと思ったのは？でアンケートを実施

https://prt-times.jp/main/action.php?run=html&page=searchkey&search_word=Owarai+Quest

3年間の主な制作物⑦論文

地域文化教育による関係人口作り —茨城県大洗町の取り組みを通じて— (玉川大学 | 紀要論文)

玉川大学観光学部紀要 第11号 2023年, pp. 89～112		地域文化教育による関係人口作り	
【実践報告】		カオスマップを作った際に自分の置が記入した「第二の人生を送るのに適した町」という表現は通じていたと感じました。余談ですが、昨日の夜から早速ガールズ&バンツァー見はじめました。1話目から女の子たちが大洗の語している場面があって、この後も楽しみです。	
地域文化教育による関係人口作り —茨城県大洗町の取り組みを通じて—		3-4-3 その他（成果）	
鎌田伸尚*, 萬里小路忠昭**		ゲスト講師がイベント出店（東京都内等）したブースを訪問等した学生：4名	
（要 約） 関係人口の創出は、今や地域振興の中心的な課題の1つとなっている。本研究では、地域文化教育を通じて、関係人口の創出の可能性について実践的に実行した取り組みを報告する。 本取り組みでは、2023年度に実施された玉川大学での講義「地域文化論」を地域文化教育の実践の場とし、様々なステークホルダーによる講義等を通じて茨城県大洗町地域について学び、学生が当地のカオスマップを作成するグループワークを通じて課題認識し、最終的にどのような大洗町を提えたかを観察し、最終的に地域文化教育による関係人口創出の可能性について考察するものである。 キーワード：関係人口、地域おこし、地域おこし協力隊、地域文化教育、カオスマップ、ガールズ&バンツァー		4 まとめ 4-1 考察 本研究は、玉川大学「地域文化論」の講義を場として活用し、地域文化教育による関係人口創出の可能性について検証し、課題や今後取り組むべき方向性を明らかにすることを目的としたが、「関係創出型」すなわち、地域との関わりを持つとうとする者を対象に地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供し、地域の課題やニーズと関係人口となる者の想いやスキル・知見等をマッチングするための中間支援機能を形成する取り組みとして試みたことは、多くの大学ゼミ等が行っている「裾野拡大型」の取り組みに加えて、教育機関による関係人口創出の新たな可能性を示すことができたのではないかと考える。 本実証の構成として、大洗町にフォーカスするだけでなく、まず茨城県というより広い視点から入り、その後大洗町の役場、地域団体、地域事業者、移住者等のより身近な視点へと進み、その多様な視点や領域を理解し、問題点を明らかにした上で、カオスマップを整理したことは、履修学生にとって同地域への深い理解を促進し、関心や訪問意向を高めることになった。実数は少ないものの実際に学生が現地を訪問するなど、学生個人が交通費負担をしたことを考え合わせると、一定の成果が出たこともその証左である。 地域文化は、その地域の人の暮らしそのものであるとの認識から、本講義では、webサイトや観光パンフレット等に掲載している情報ではなく、大洗町に關係する各ゲスト講師陣によって当地人たちのリアルな活動内容や背景、想い、課題などをそのまま伝えていただいた。それによって、履修学生が地域で暮らす、または働く人たちの営み（特に普段、学生が暮らす都心部とのコントラスト）に触れたこと、さらに二拠点生活などの暮らし方や複業・起業などの多様な働き方を知れたことは、アンケート結果に見られるように、大洗町の特性と併せて人生の選択肢を学生たちに提案することができた。これも本実証の成果になろう。 一連の講義は、学生が地域の多様な人の営みに触れたことで、学習理解を超えて、当事者意識を持ち、能動的に行動するまでに至ることがわかり、そのような意識や行動は関係人口の入り口になると言える。さらに関係創出型にある「地域と持続的なつながりを持つ」や「地域の課題やニーズと、関係人口となる者の想いやスキル・知見等をマッチングする」を実現するためには、地域側と関係人口となる側をつなぐ中間支援機能が求められる。今回、その役割を関係人口の創出を活動ミッションとする地域おこし協力隊と大学という教育機関が協働で担った点は大きいと言える。	
1 はじめに 1-1 研究の背景 我が国の高齢化が進み、65歳以上人口が総人口に占める割合が3割に迫りうしており、15～64歳人口は、平成7年に8,716万でピークに、令和3年には7,450万人と、総人口の59.4％となっている ¹⁾ 。一方、2022年の人口動態統計（概数）によれば、合計特殊出生率は過去最低の1.26で前年の1.30より0.4ポイント低下しており、出生数は7年連続で減少。過去最少だった2021年を4万875人下回る77万747人となり、初めて80万人台を割り込んでいるのが現状である ²⁾ 。 少子高齢化の傾向が増す中、過疎化とも相まって地域の人口減が進み、とくに若年層の減少により、お祭りなど地域の行事も行えなくなるなど地域の担い手不足が大きな課題となっている。能登者は平成30年度、国民が「関係人口」として地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供する地方公共団体を支援することを目的として、「関係人口創出・拡大事業」（モデル事業）が実施されている。現在は、過疎など地方圏における人口減少はさらに深刻化を増す中、地域創生等の動きに加え、関係人口作りの取り組みも上記モデル事業以外にも様々な手法にて全国各地で実施されている。		4-2 今後の方向性と課題 4-2-1 今後の方向性 観光等の交流人口としてではなく、関係人口として地域を訪れる際には、単に地域の歴史や伝統、	
所属：* 観光学部観光学科 ** 大洗町 地域おこし協力隊		受領日 2024年1月16日	

茨城県大洗町の観光地形成について —地域文化の発展と観光地の形成・発展過程— (玉川大学 | 紀要論文)

玉川大学観光学部紀要 第12号 2024年, pp. 1～55		鎌田伸尚, 石井盛志, 萬里小路忠昭	
【研究論文】		茨城県大洗町の観光地形成について —地域文化の発展と観光地の形成・発展過程—	
鎌田伸尚*, 石井盛志**, 萬里小路忠昭***		2 観光地の類型	
《要 約》 本研究は、茨城県大洗町が観光地としていかに形成されたのかを、大洗ならではの生活・文化背景、自然環境、そして「保養地」としての発展経緯を踏まえ、古代から現代に至るまでを明らかにしたものである。加えて、東日本大震災やコロナ禍等、観光にとって非常に困難な時期を経ても発展を続ける現状や課題についても考察を行った。 キーワード：茨城県大洗町、観光地形成、保養地、エリア・ケイバビリティ、東日本大震災、コロナ禍		観光とは「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目指すもの」 ¹⁾¹⁾ であり、さらに言えば、「およそ観光とは自己の自由時間（＝余暇）の中で、観賞、知識、体験、活動、休養、参加、精神の鼓舞等、生活の変化を求める人間の基本的欲求を充足するための行為（＝レクリエーション）のうち、日常生活圏を離れて異なった自然、文化等の環境のもとで行おうとする一連の行動をいう」 ¹⁾²⁾ 。 そうした目的のために、あるいは行動のために訪れるのが観光地だが、日本全国の観光地はそれぞれに成り立ちが異なり、様々な形成過程を経て発展をしてきている。観光で訪れる観光地は、大きく3つに分類され、すなわち「観光地」、「レクリエーション地」、「宿泊地」に分類し、その下に詳細分類される ¹⁾³⁾ 。	
1 はじめに 1-1 研究の背景 コロナ禍を経て、今年度（2024年度）はコロナ禍前の2019年度とほぼ同等の基準まで観光業が復活するとの観測もある。円安を背景に、国内旅行が活性化しており、国内の観光地間の競争が激しくなっている。さらに、観光目的は従来の「自然に触れる」、「名所旧跡」、「温泉」等に加え、近年はアニメの舞台等の「聖地巡礼」もその目的となり、観光の多様性が増している。 観光地は、その発生から「観光地」と成るまで、それぞれ固有の理由と成り立つ方法があり、観光ブランド化している。一方で、施設等を充実させていく中で没個性となりがちな観光地も見られる。観光地間の競争が増している現状において人気の観光地と成るためには、観光地の形成過程を見直し振り返ることで、当該の観光地の真の価値を問いただし、明らかにすることにほかならない。		a. 観光地 1. 街並み観光地 2. 都市観光地 3. 社寺観光地 4. 自然風景地 b. レクリエーション地 5. スキー場 6. 海水浴場 7. 農山村地 c. 宿泊地 8. 温泉地	
1-2 研究の目的と方法 本研究では、まず国内の観光地の形成過程の類型を確認し、その一類型として「保養地」に焦点を当てることで、茨城県大洗町についての観光地形成のプロセスを明らかにし、大洗町の観光地としての価値を再認識し、今後の展望を考察する。		上記は、全国の観光地を大きく3分類を可能とするものである。詳細分類は、その観光地の観光資源や特性を表している。 なお、この分類は、近年盛んとなっているアニメの聖地巡礼等「推し活」 ¹⁾⁴⁾ による特定地域の観光地形成（目的的観光）を包含しておらず、新たに大分類として追加が必要であるし、複合的な特性を有する観光地（大洗もその1つ）の研究には複合観光地といった新たなジャンルも必要である。 なお、上記分類で取り上げた国土交通省のリポート ¹⁾⁵⁾ では「海水浴場」に成功事例が含まれなかったとしているが、本研究で取り上げる大洗は海水浴を推進した保養地として発祥し、時代により、幾重にも観光資源が重なるように（多層的に）発展を遂げてきた経緯を次章以降で論じていく。	
1-3 本稿の構成 本研究では、以下第2章において、国内の観光地がいかに形成されたかについて観光地形成の類型を整理する。続く第3章では、類型の1つである「保養」を起源とする茨城県大洗町の観光地としての形成過程を論じる。そして、第4章では、大洗の生活観光地としての可能性について考察する。		3 茨城県大洗町の観光地形成 3-1 大洗町の概要 大洗町は、茨城県の太平洋沿岸の中央部に位置し、東西約2.5km、南北約9.0kmの細長い形をしている。面積は約23.89km ² 、県内44市町村の中で2番目に小さい町である。位置関係としては、県庁所在地である水戸市の中心部からは南東に約12km、東京からは約100kmの距離となっている。北は那	
所属：* 観光学部観光学科 ** 有限会社金波樓 *** 大洗町地域おこし協力隊		受領日 2025年1月14日	

<https://tamagawa.repo.nii.ac.jp/records/2000284>

<https://tamagawa.repo.nii.ac.jp/records/2000429>

3年間の成果と課題

3年間の活動サマリー

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

令和4年度

活動方針策定
イベント企画

まち歩きイベント①
@町内

イベント企画
プログラム企画

まち歩きイベント②
@町内

ワーケーション
プログラム@町内

まちづくりプログラム@町内

大洗クエスト
Webサイト制作

ふるさと納税の出店事業者紹介
(インタビュー・記事制作)

まち歩きマップ制作

大学連携企画

大学連携(講義)
@玉川大学

大学連携企画

大学連携(講義・発表)@玉川大学 & 茨城大学

いばらき暮らし
セミナー@都内

いばらき県央地域移住・定住促進協議会
ワーキンググループ | 移住・交流フェア | メタバースイベント | 移住体験ツアー

令和5年度

活動方針策定
大学連携企画

イベント企画・プログラム企画

場づくりイベント
@町内

まち歩きイベント
@町内

あんこう祭
出展

ワーケーション
プログラム@町内

大学連携(実践論文制作)

まち歩きマップ制作

大学連携(講義・ワーク・発表・現地フィールドワーク)
@玉川大学

いばらき企画編集ゼミ
セミナー@都内

Local Good Ibaraki
(マルシェ)@都内

いばらき企画編集ゼミ
ZINE制作

いばらき企画編集ゼミ
イベント@都内

いばらき県央地域移住・定住促進協議会
ワーキンググループ | 移住・交流フェア | ふるさとワーキングホリデー

令和6年度

活動方針策定
大学連携企画

二地域居住体験ツアー企画

二地域居住体験ツアー①
@町内

事業者の新商品
企画(リリース)

二地域居住体験ツアー②
@町内

二地域居住
Webサイト & ノベルティ制作

大学連携(研究論文制作)

二地域居住コンテンツ制作

大学連携(講義・ワーク・発表)
@玉川大学

いばらき暮らし
セミナー@都内

いばらき県央地域移住・定住促進協議会
ワーキンググループ | ふるさとワーキングホリデー | ふるさと回帰フェア | 学生定住・Uターン促進イベント(さがすいばらき)

3年間の成果（定量面）

コンテンツ軸

webサイト制作：2サイト

記事制作：38本

※イベント・プログラムの参加募集
記事、イベント・プログラムの事
後レポート記事、取材記事の総数

動画制作：10本

冊子制作：3冊

※まち歩きマップ2冊、ZINE1冊

論文制作：2本

※玉川大学紀要論文2本

イベント企画数：5件

※まち歩き3件、場づくり1件、あん
こう祭出展1件

プログラム企画数：6件

※ワークショップ2件、まちづくり
プログラム2件、居住体験2件

PR軸

プレスリリース配信：10本

（上記のうち）webメディア
への転載数：延べ204サイト

※PRTimesより参照

メディア取材：15件

※水戸経済新聞2件、LuckyFM2件
Livhub6件、複住スタイル1件、
LIFULL HOME'S PRESS1件、
SMOUT移住研究所1件、ワーブ
シティ1件、東京都立大学都市政
策学科杉原ゼミ生卒論1件

登壇軸

イベント登壇：7回

※いばらき暮らしセミナー2回、メ
タバースイベント1回、いばらき
企画編集ゼミ1回、さがすいばら
きイベント1回、東海村Tプロジェ
クトイベント1回、土浦第3中学校
校外学習1回

学術機関での登壇：6講義

※玉川大学5講義（1年次セミナー2
講義、地域文化論3講義）、茨城
大学1講義（プレゼン・スタ
ディ）

関係軸

イベント・プログラムの参
加人数：1,000名以上

※活動範囲は町内外で、イベント
ブース立ち寄りのみ、プログラム
参加者が企画したイベントの参加
者、大学講義の受講生等を含む

現地ガイドした人数：88名

※町内プログラム参加33名、茨城
県・県央のプログラム参加8名、
大学生9名、中学生30名、その他
（他自治体職員・民間企業等）8名

取材した町内事業者：10名

※ふるさと納税出品事業者8名、移
住者2名

連携した学術機関：2大学

※玉川大学観光学部・鎌田伸尚教授
茨城大学人文社会科学部・西野由
希子教授

3年間の成果（定性面）

まちのスポットだけでなく
人の魅力を最大限に引き出す



大洗町で活動する人の想いに迫り、町外に住む人との交流促進や関係深化を中心としたイベント・プログラムの企画運営と情報発信をしてきた。

イベント・プログラムへの
参加から関係人口が生まれる



参加者の中には事業者の顧客になったり、事業者の仕事に副業で携わったり、週末に大洗で二拠点生活やボランティアを始める人たちが生まれた。

移住促進の活動を通じて
二地域居住のニーズが顕在化



都市圏にはない自然環境や保養地としての文化がある大洗は新しいライフスタイルとして注目される二地域居住と親和性が高いと思われる。

3年間の活動を通して見えた課題

出会いのきっかけづくりから
持続可能な関係づくりへ



協力隊3年間の活動を一言でまとめると「出会いのきっかけづくり」であったが、その後も継続してまちと関わる事が関係人口の本質であり、今後は関係づくりに対する取り組みが求められる。

関係人口がもたらす
まちへのインパクトの可視化



3年間の活動を通じて、事業者の新商品がリリースするなど、関係人口による効果・影響があったが、まち全体で実感するレベルには至っておらず、今後は広報活動含め、効果の可視化が求められる。

二地域居住の希望者を受け
入れる住居や制度等の整備



二地域居住はここ数年、国の促進法施行やふるさと住民登録制度の提案、民間企業の居住サービスの拡大しており、今後は空き家等の利活用、居住者への補助金など、自治体の施策・支援が求められる。

おまけ（プライベート）

協力隊2年目（2023年）に娘が誕生し、家族3人で大洗の暮らしを堪能しました！



夕方の涸沼川沿いをよく散歩してました。



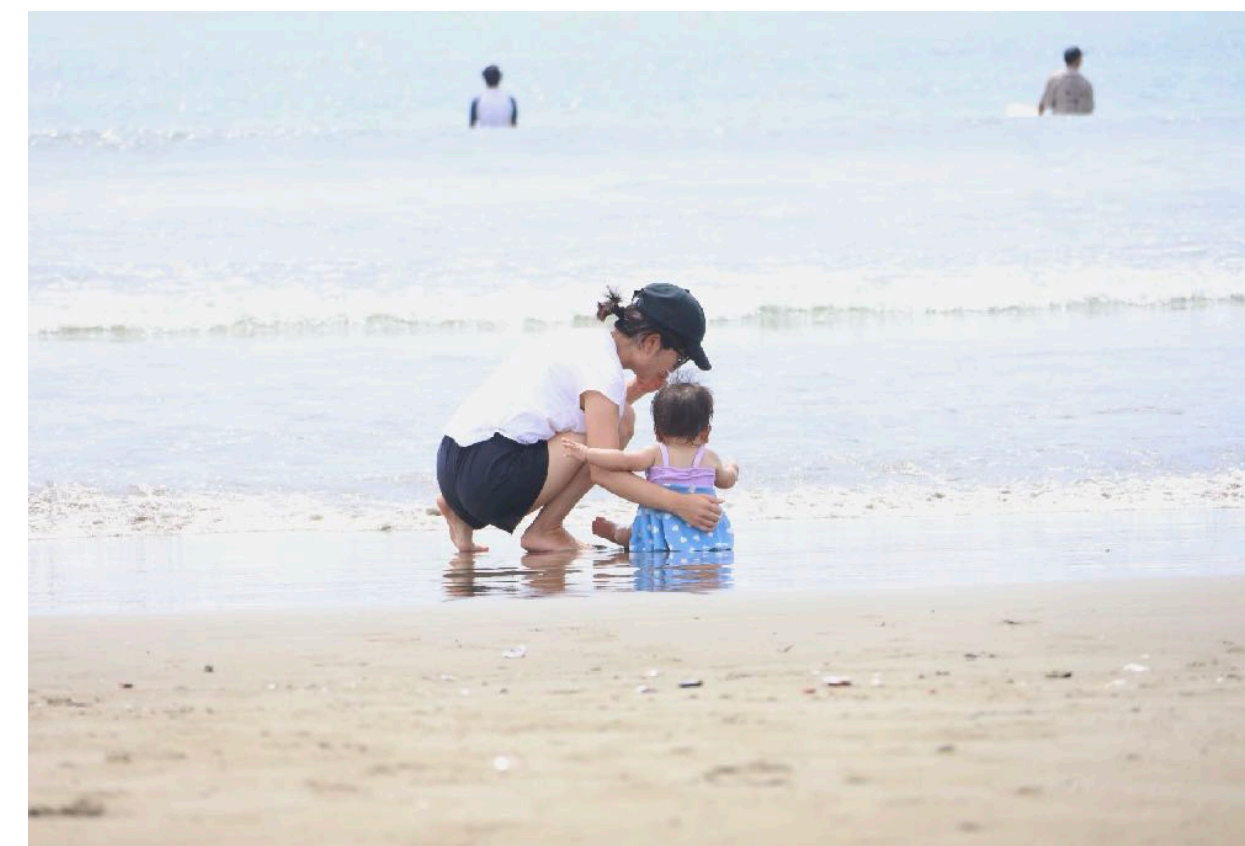
神奈川との行き来は電車でしてました。



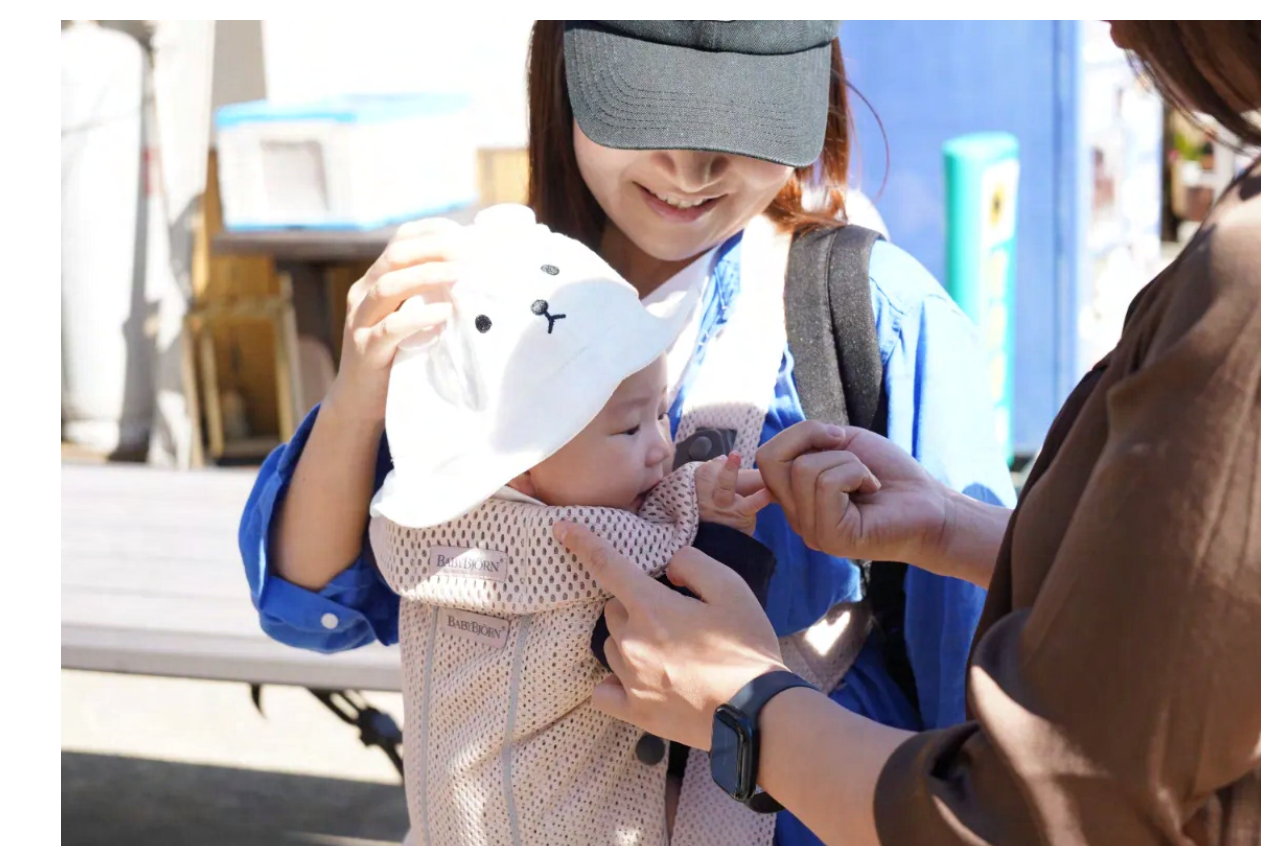
ふれあいセンターきらきらでよく遊びました。



町内のイベントにも一緒に参加してました。



自然との触れ合いを楽しんでました。

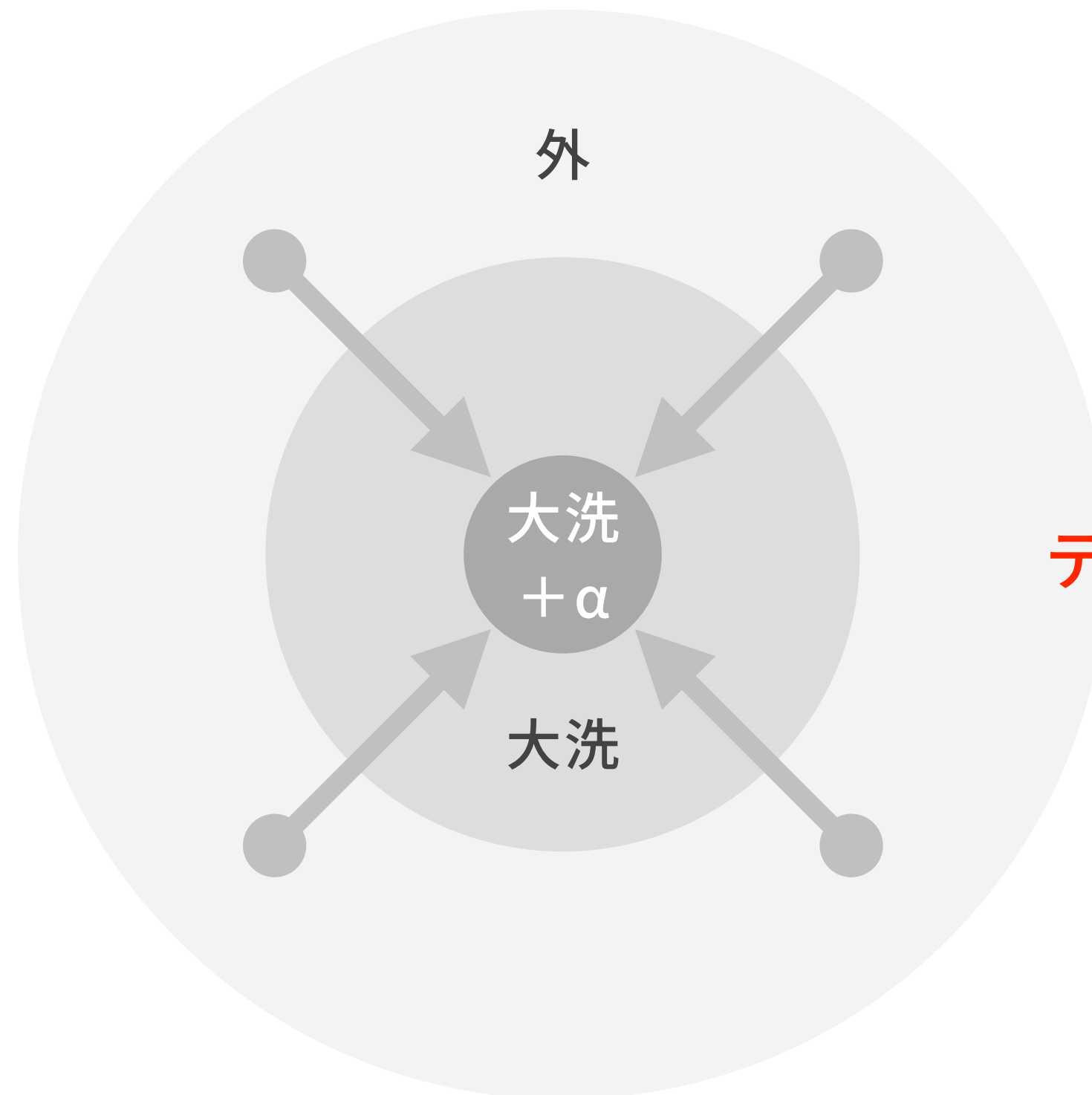


町民の方々にかわいがっていただきました。

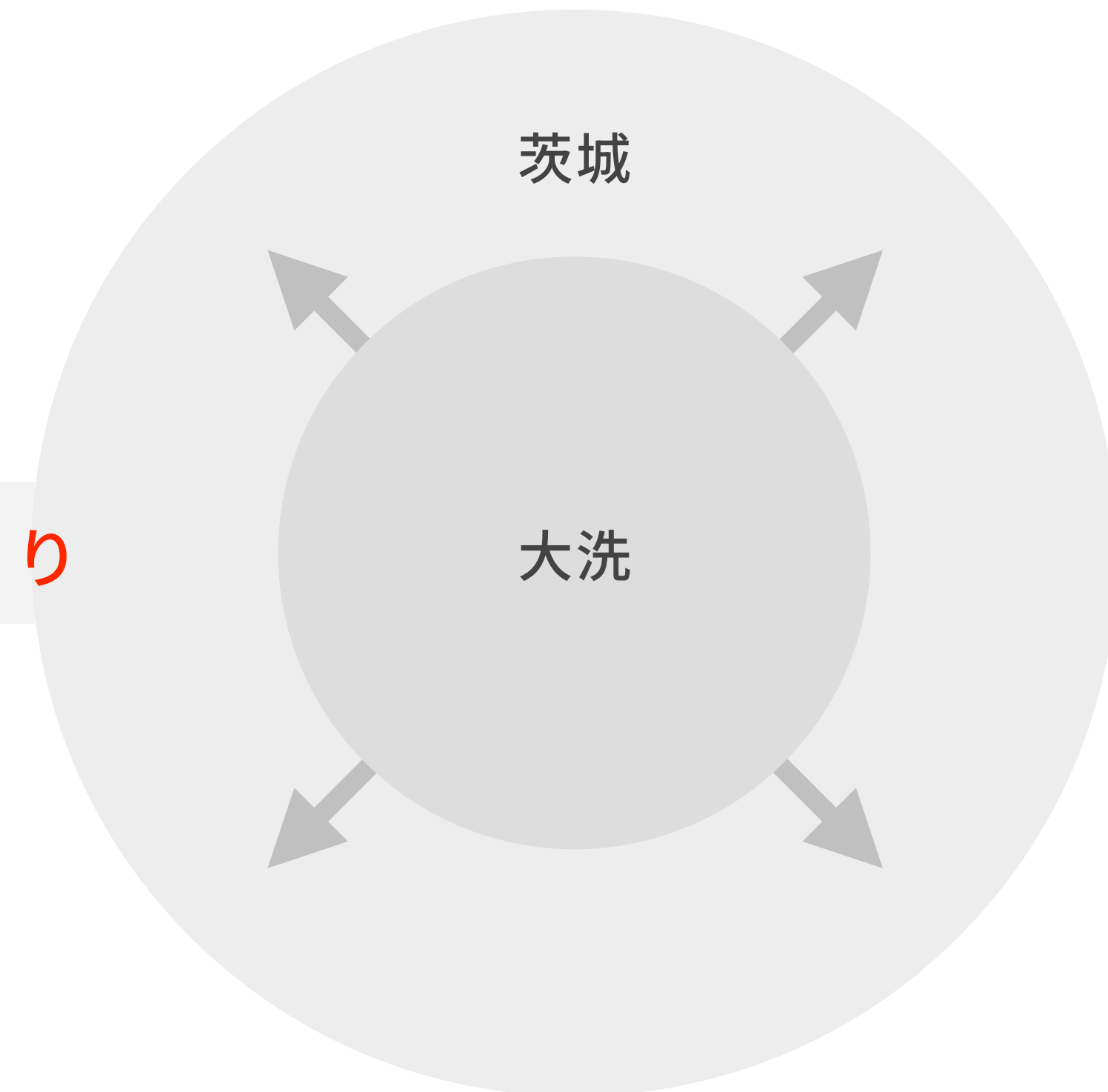
今後の展望と活動

今後の展望

外 → 大洗 + α



大洗 → 茨城 + α



デュアルな地域づくり

- デュアルワーク
- デュアルライフ
- デュアルスクール
- デュアルコミュニティ
- ..etc

- ① 外から大洗に関わるきっかけと関係づくり
 - ② 自身の外での活動で得た経験・知見を活かす
- ▶ + α は大洗の特有性の探求とアプローチ

- ① 大洗以外の地域やそこで活動する人と連携する
 - ② 大洗での活動で得た経験・知見を外に発信する
- ▶ + α は共創活動を通じた社会的インパクトの創出

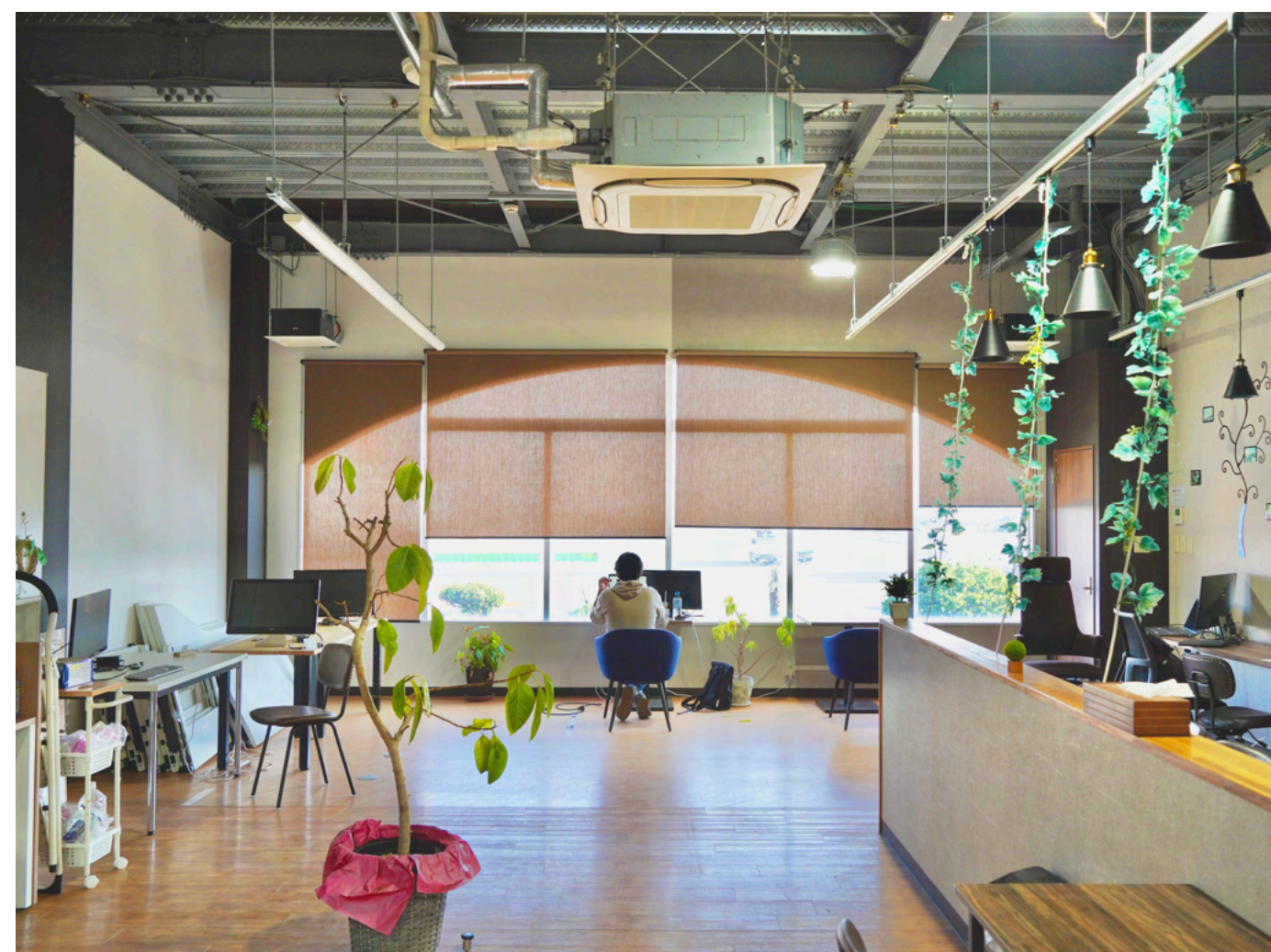
今後の活動

大洗町での活動は
二地域居住の推進を軸に



自身も実践者であり、3年間の活動でニーズの高まりを感じている二地域居住に注力する。現地での居住体験プログラムを軸に、空き家等の利活用や居住者への補助金等の施策も自治体に提言する。

外部人材の誘致から
協働のまちづくりを



国が推進する地域おこし協力隊や地域活性化起業人等の制度を活用し、町外から専門的なスキルや知見を持つ外部人材を誘致する。自身が推進する二地域居住も含め、町と連携したまちづくり活動を行う。

一般社団法人を設立
地域創生事業を展開



大洗に関わるきっかけになったプログラムで出会ったメンバーで結成した大洗クエストを法人化する。主に関わる・暮らす・働く・学ぶ・旅するの5領域で地域創生事業を展開し、まちづくり活動を行う。

おわりに

2025年4月にて協力隊活動の任期が終了となりました。任期中にご一緒させていただいた大洗町の皆さまに感謝を申し上げます。2022年1月に参加したまちづくりプログラムがきっかけとなり、その後、2022年5月に大洗町の地域おこし協力隊に着任しました。町役場の皆さまにいろいろサポートいただき、大洗町以外の地域に住みながら地域づくりに関わる「関係人口」の創出を軸に、3年間町内外で活動をしてきました。

これらの活動を通じて出会った方々が結果的に、週末に定期的に町を訪問するようになったり、一緒にまちづくりを行う仲間になったり、大洗で二拠点生活や副業をはじめてみたり、事業者が開発した新商品のPRやwebサイトの制作に携わったりと、大洗町と様々な関わりを持つ成果が生まれたことが嬉しく思います。このような多様なカタチで地域と関わる人を「関係人口」といいます。

日本全体の大きな課題であり、大洗町も進む人口減少、それに伴う労働力や担い手不足の課題の解決策の一つに「関係人口」は今後、ますます注目が集まると思います。そして、一人ひとりが普段の生活や仕事にもう一つ、自身が自然体を楽しめて、新たな人との出会いや学びの機会になったりする「何か」を持つことが関係人口の本質なんだと思います。

それが例えば、町のイベントに参加すること、事業者の活動にボランティアで参加すること、旅をしながら町に滞在して仕事（テレワーク）をすること、地域の仕事を副業で試みることに、子供を自然豊かな環境で遊ばせてみることに、週末だけ普段とは違う場所で暮らすことなどです。

そのような楽しみ方や関わり方、暮らし方ができる魅力やポテンシャルが大洗町にはたくさんあると、3年間の活動を通じて実感しました。特に、大洗町に元々ある文化や風土、自然環境を知れば知るほど、そこに居れば居るほど、その特有性に気がつくことができます。また、町で事業を営む人たちの想いを聞けば聞くほど、町への愛着を感じることができます。

地域おこし協力隊としての活動は終了となりますが、3年間築いてきた大洗町との関係を大切にし、引き続き、人と人、人との、人と場、人と事などをつなぐコーディネーターとして、大洗の持続可能なまちづくりに貢献していきたいと思っています。ですので、「お世話になりました！」というお別れの言葉ではなく、「これからもよろしくお願いします！」という関わりの言葉で締めさせていただきます。

